

参考引用文献

	資料書籍名	発行
1	企業診断ハンドブック	(社)中小企業診断協会
2	農林水産統計(平成16~17年)	農林水産省統計情報局
3	畜産物生産費(平成15年)	農林水産省統計情報局
4	農業経営部門別統計(野菜・花き・果樹部門編14年)	農林水産省統計情報局
5	食料・農業・農村白書(平成16年)	農林統計協会
6	作物別原単位(2005年版CD)	静岡県農水部
7	作物別経営統計(2005年版CD)	愛知県農水部
8	北海道農業生産技術体系	北海道農政部
9	畜産経営(荒井肇著)	家の光
10	畜産経営の動向(平成16年)	畜産中央会
11	酪農経営改善指導指標(草地依存)	畜産中央会
12	肉用牛経営改善指導指標(肉専用種)	畜産中央会
13	養豚経営改善指導指標(繁・肥一貫経営)	畜産中央会
14	養鶏経営改善指導指標(ブロイラー経営)	畜産中央会
15	養鶏経営改善指導指標(採卵一貫経営)	畜産中央会
16	新野菜づくりの実際(果菜1)川城英夫編	農文協
17	新野菜づくりの実際(果菜2)川城英夫編	農文協
18	新野菜づくりの実際(葉菜)川城英夫編	農文協
19	新野菜づくりの実際(根茎菜)川城英夫編	農文協
20	新野菜づくりの実際(軟化・芽物)川城英夫編	農文協
21	養液土耕栽培の理論と実際	誠文堂新光社
22	野菜・花きの養液土耕	農文協
23	施設園芸ハンドブック	施設園芸協会
24	養液栽培マニュアル21	誠文堂新光社
25	養液栽培の新マニュアル	誠文堂新光社
26	月刊現代農業	農文協
27	家畜の衛生管理ガイドライン解説書	鶏卵肉情報センター
28	集落営農ハンドブック	
29	全国担い手育成支援協議会配布資料	同協議会
30	農業経営診断実務マニュアル(第1集)	(社)中小企業診断協会

執筆者紹介(中小企業診断士)

	はじめに	橋本文夫
第1章	農業経営診断の基本(総論) 農業経営診断の基本(損益分岐点分析)	橋本文夫 植田善和
第2章	農業経営の基本診断	橋本文夫
第3章	農業経営簡易診断・本診断調査表	
	1 野菜の簡易診断(作業別労働時間・収益費用調査表)	橋本文夫
	2 野菜経営分析表	橋本文夫
	3 畜産経営分析表	橋本文夫
	4 畜産収益性調査表	植田善和
	5 法人の診断調査表	植田善和
	6 農業経営法人の財務診断事例	植田善和
	7 水稻(含む大豆)経営診断調査書(法人)	橋本文夫
	8 野菜経営診断調査書(トマト)	植田善和
	9 野菜経営診断調査書(イチゴ)	植田善和
	10 野菜経営診断調査書(メロン)	豊田和之
	11 野菜経営診断調査書(ミツバ)	和田邦彦
	12 野菜経営診断調査書(タマネギ)	鈴木敏之
	13 野菜経営診断調査書(甘藷)	吉岡正明
	14 野菜経営診断調査書(大豆)	森田太郎
	15 野菜経営診断調査書(小麦)	奥田晴彦
	16 畜産経営診断調査書(酪農)	五木 勝
	17 畜産経営診断調査書(肉用牛)	石原 讓
	18 畜産経営診断調査書(肉用牛)	久田博司
	19 畜産経営診断調査書(養豚)	近藤 讓
	20 畜産経営診断調査書(ブロイラー)	五十嵐幸枝
	21 畜産経営診断調査書(鶏卵)	五十嵐幸枝
	終わりに	橋本文夫

連絡先(マニュアル等についてのお問い合わせ先)

橋本文夫(農業経営支援センター会長)

静岡県浜松市富塚町2961-55

TEL/FAX053-472-3758

E-Mail Dainaru2@yahoo.co.jp

植田善和(農業経営支援センター事務局長)

TEL/FAX053-485-9559

E-Mail yuedaham@yahoo.co.jp

おわりに

- (1) 農業分野は、広く、厚みのある産業であり多種多様である。分類を試みると下記に示す通りであこのうちのどの作目・経営体を対象にした経営診断調査表を作成するかを検討し、今回「診断マニュアル第2集」は、主として野菜作と畜産分野を対象とすることにした。
- (2) 農業経営診断実務マニュアル作成に当り、2つの前提条件を決めた。
1つは、担当する作目知識を一通り習得できる参考書を購入すること。
――知識投資 2万円以上(10冊程度)。
2つ目は、栽培・飼育現場を視察・踏査・研究して参考本知識と対比、整理する。
――時間投資 6月～12月まで随時に、グループ個人で。
経済的・時間的投資によって、現場環境の理解と多様な栽培作型、機械作業状況、飼育法、ハウス・畜舎の設備、IT活用システム等の知識を充電することから始める。
- (3) 経営診断と言えるには、単に「決算書の数字を机上で分析するだけ」でなく、少なくとも診断先の栽培・飼育現場を踏査し、診断先の実施状況を確認することが不可欠である。現場踏査によって、作物の栽培作型、新品種への取り組み、作業記録の作成、施設、生産技術の導入、生産の省力化、軽作業化等の状況を観察・質問をすることができる。これは、農業経営の目標とする「所得(収益)」に反映される調査事項であり、定性分析に該当するものである。
決算書による定量分析と現場踏査による定性分析を行うことによって、「生産の合理化」(作物毎の収量・単価の増大、作業時間の短縮、省力化、能率化を実現する作型の採用などに関する生産技術の導入)、「規模拡大化」及び生産から販売に至る「経営管理の合理化」について問題点と課題を整理し、将来に向けた経営計画の助言が可能となる。
- (4) 診断実務マニュアル編集委員会は、診断調査表の内容・形式をどうするかを検討するため現場調査を実施した。
 - ①野菜の生産(栽培)手法
 - ・露地栽培、マルチ、トンネル・雨よけ作型
 - ・灌水式(露地……セロリ、ナス、里イモ)、(ハウス……葉菜・ブドウ・ナシ・ハーブ)
 - ・養液土耕式(ハウス栽培……トマト・イチゴ・メロン、遠隔栽培……花き)
 - ・養液水耕式(ハウス栽培……トマト、ミツバ、パオ)
 - ・養液ロックウール式・バック式(ハウス栽培……トマト、イチゴ、花き)
 - ・栽培工場、LED発光ダイオード(水稲、レタス、トマト、花き)
 - ②三重県農業試験場(肉牛、乳用牛、養豚の畜舎)及び野菜・果物のハウス栽培
 - ③養豚舎、牛舎、鶏舎での飼育現場
- (5) 診断調査表の作成様式
 - ①診断調査表の様式は、画一的にしないで、自由に開発作成することにした。最初は、農林水産省統計表を簡略化して編集する考え方があったが、別途に「簡易診断調査表」として作成した。
 - ②診断における定量分析に必要な基準データは、農林水産省統計データの全国平均値、地域別、都道府県別、耕作規模別の中から抽出して利用することができるが、本書では「全国平均値」と「静岡県農水部の原単位指標」「畜産中央会作成の指標」を利用した。調査表活用に当たっては、地域別か都道府県別の指標を転記して利用されたい。
作業(工程)別労働時間調査表と収益・費用調査表の基準値は、都道府県農水部、農業試験場、農業普及協会、JA中央会、関係団体等から収集したデータを利用して活用されたい。
- (6) 本書の農業経営診断調査表は、決算書の数字から作成する経営分析表を用いる「簡易診断」と農業経営全体を把握する調査表や経営チェックリスト、SWOT分析を含めた「総合診断」に区分する農業経営の実際は、「水稲+麦+大豆」、「水稲+野菜」、「水稲+畜産」、「露地野菜+ハウス養液栽培」等々の複合経営が多い。従って総合診断は、作物毎、ハウス毎に調査表を作成して個別の収量・販売(出荷)単価、売上高、農業経営費、作業時間、所得(収益)を記帳・整理する必要がある。それには作物毎に「作業(工程)別労働時間調査表」と「収益・費用調査表」を用いて作物別の分析を行う。どの作物生産が有利で、どの栽培作物が不利であるかを分析して、所得目標に対して新たな栽培計画を実施することになる。そこに経営診断の意義がある。

(注) 診断対象となる農業経営の分類

(1) 栽培(飼育)別

①土地利用型(水稲・露地栽培)②施設等利用型(ハウス養液栽培など)

(2) 経営体別

①個人②法人③任意組合④協業組織⑤集落営農組織

(3) 作目別

①水稲、野菜、花き、果樹、工芸作物(茶、タバコ)、畜産(農林水産省統計)

(4) 農家区分別

①主業的農家②副主業的農家③副業的農家

①専業農家 ②兼業農家(第1種兼業農家・第2種兼業農家)

(5) 規模別

①作付面積別②ハウス棟数(総面積)③採卵用鶏・ポロイラー羽数④肉用牛頭数

⑤搾乳牛頭数⑥豚頭数

(6) 農産物を対象にした農家ビジネス

①農産物加工販売②農産物加工販売(トウフ・チーズ他)③食堂・レストラン④その他

本報告書は、短い期間で調査・研究を経て作成したマニュアルであるため充分とは言えない。活用に当っては、随時加筆訂正して、より実務的な調査表として利用されることをお願いしたい。

本書の内容についてのご質問、ご意見、農業経営診断業務については、お気軽にご連絡下さるようお願いします。

平成18年2月

農業経営診断実務マニュアル編集委員会

委員長	橋本文夫
副委員長	植田善和
委員	近藤 稔
委員	日高嘉郎
委員	久田博司



社団法人 中小企業診断協会